

拠点C『旧丸光ビル周辺』における課題

拠点テーマ

「拠点C:旧丸光ビル周辺」

雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する

「食彩・感動いしのまき」

現計画における拠点の方向性

- ・プロムナードの目的地や出発地としての拠点であり、雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を味わう観光的な要素を含んだスポット
- ・11番街区の再開発にあたっては、堤防整備と連携して民間による建物などの再開発を推進（官民連携）

現計画面

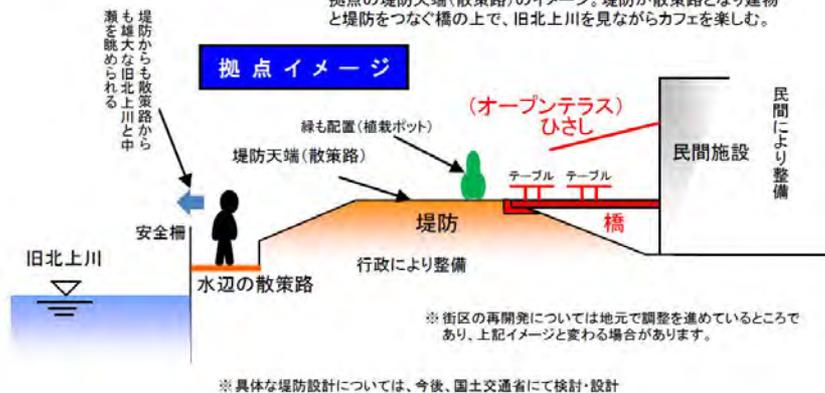
拠点イメージ

拠点イメージ

- 官民連携により水辺の拠点整備を目指す。
- 堤防整備（国）と連携して背後地の11番街区の再開発を行うことで、川を眺めながらゆったりカフェや食事が楽しめるような空間を目指す。



拠点の堤防天端（散策路）のイメージ。堤防が散策路となり建物と堤防をつなぐ橋の上で、旧北上川を見ながらカフェを楽しむ。



■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・拠点の方向性は現計画と同じ
- ・新たな堤防と背後地が一体となった賑わいの創出
- ・貴重な水辺空間である中瀬との連携

復興計画と拠点Cの課題



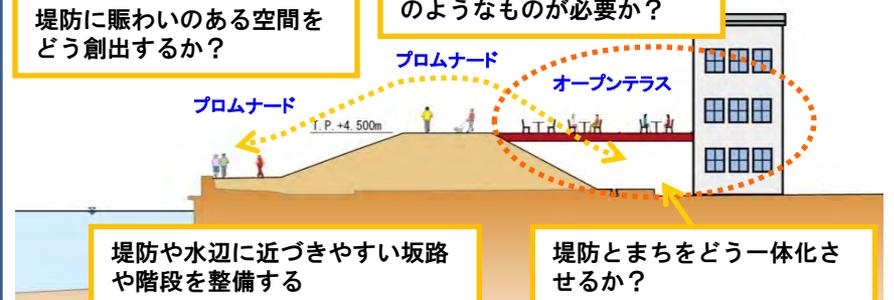
復興計画のイメージと拠点の留意点

T.P.+4.5mで整備

堤防に賑わいのある空間をどう創出するか？

集客効果を高める施設はどのようなものが必要か？

Aのイメージ



※堤防断面はイメージであり確定したものではありません

拠点D『中瀬・内海橋』における課題

拠点テーマ

「拠点D:中瀬・内海橋」

360° 川に囲まれたミラクルゾーン

「プロムナードステーション」

現計画における拠点の方向性

- ・中瀬は、石ノ森萬画館やハリストス正教会、公園など旧北上川そして石巻の観光ポイントとしての拠点が既に形成（新たな整備不要）
- ・11番街区と中瀬の連携により、多くの観光客や市民を集めるとともに、人をプロムナードの各方向（河川の左右岸や上下流など）へ広げる役割も必要

現計画面

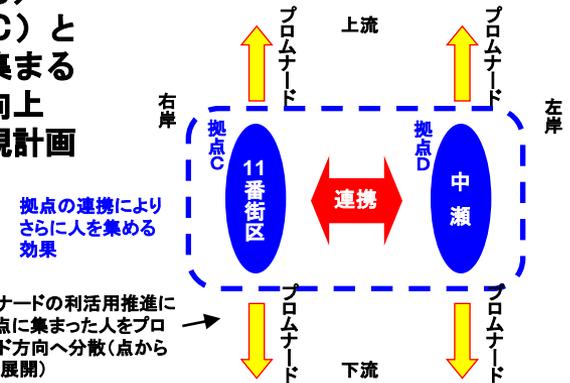
拠点イメージ

- 中瀬に位置する石ノ森萬画館は、石巻そして旧北上川の観光スポットとして年間約18万人もの観光客が訪れている（平成21年観光客入込数）。
- 周囲は360° 川に囲まれたすばらしい景観であり、水辺のテラス護岸や中瀬公園が整備され、また民間においても海事公園や川のロケーションを大事にした食事処が最近整備され、島全体が観光スポット。
- 近年、石巻を舞台としたフィルムコミッション活動の中で、石巻の古き良き時代の面影を今に残す「岡田劇場」が注目を浴びており、中瀬観光の新たな観光として脚光を浴びている（新しさと古さが調和した島）。



■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・内海橋の架け替えを踏まえた新たな周遊ルートの見直し
- ・唯一堤防が無く、水辺に近づける貴重な場所であることを踏まえた親水性のある施設整備の検討（ただし、安全性に十分配慮する）
- ・11番街区（拠点C）と連携した、人の集まる観光拠点の機能向上
- ・拠点の方向性は現計画と同じ



復興計画と拠点Dの課題



ルート③『旧北上川左岸』における課題

ルートテーマ

「ルート③:旧北上川左岸」

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝える

「歴史と漁港ルート」

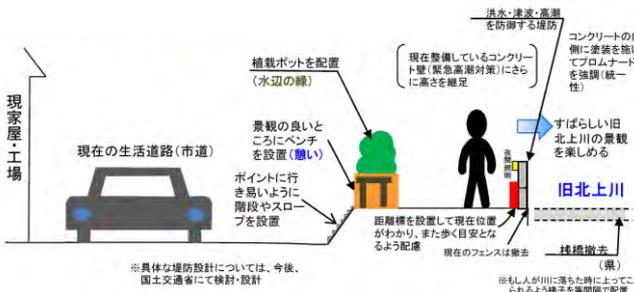
現計画におけるルート方向性

- ・安全に快適に水辺を緑を感じながら散歩できるプロムナード
- ・水辺そばの道路は現在のまま通れるようにする（生活道路）
- ・プロムナードから各ポイントへ行き易いように工夫（階段やスロープ）
- ・途中休憩し、水辺の景観を眺められるよう配慮

現計画案

ルートイメージ

堤防とプロムナードのイメージ例



復興計画とルートの課題



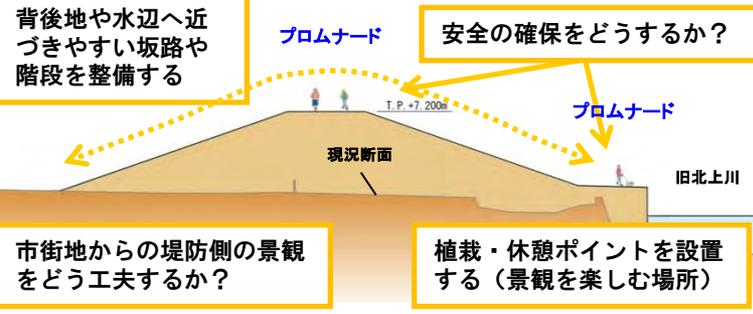
プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・ルートの方向性は現計画と同じ
- ・より大きな堤防が新設されることにより、堤防や水辺に近づきやすくするための坂路、階段等の工夫が必要
- ・堤防の新設により市街地から旧北上川の景観が大きく変わる

復興計画のイメージとプロムナードの留意点

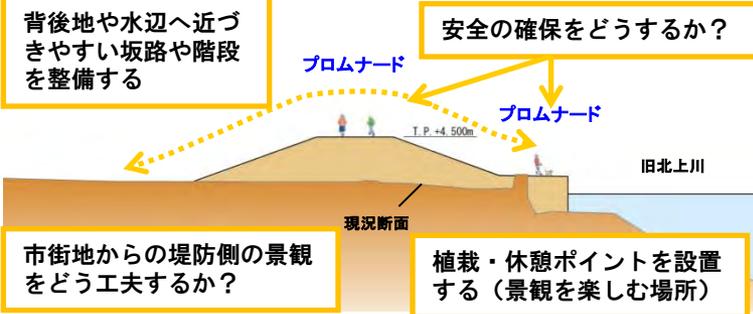
イメージ①: T.P.+7.2mの整備区間

Aのイメージ



イメージ②: T.P.+4.5mの整備区間

Bのイメージ



※堤防断面はイメージであり確定したものではありません

拠点E『ヤマニシ造船所跡地』における課題

拠点テーマ

「拠点E:ヤマニシ造船所跡地」

船が停泊する石巻の原風景が楽しめる

「石巻観光マリーナ」

現計画における拠点の方向性

- ・旧北上川に不法係留するプレジャーボートやヨットが収容できるマリーナを計画（不法係留する漁船については漁港に収容するよう働きかけ）
- ・プロムナードと連携する拠点として、マリーナと併設して人々が集い憩える拠点形成を目指す

現計画案

拠点イメージ

マリーナでの船舶停泊のイメージ

(仮称)川の駅「ひたかみ」

- ・旧北上川に不法係留しているプレジャーボートを収容するマリーナとしての整備を検討（漁船については漁港区域へ）。
- ・既に整備されている親水護岸を生かして、水辺に親しみ憩える空間を併設（憩いの空間として親水護岸の背後地にベンチや東屋、植栽などの整備をイメージ）。
- ・親水護岸から、マリーナに停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めたりすることができるなどの観光ポイントとしても楽しめるポイント。
- ・湊地区の地域活性化方策として、プロムナードや拠点と連携して石巻の特産品の販売や食事できる施設（川の駅「ひたかみ」(仮称)）を提案（平面的な広がり期待）



一般的なマリーナのイメージ

親水空間

■プロムナード計画の方向性と主な課題

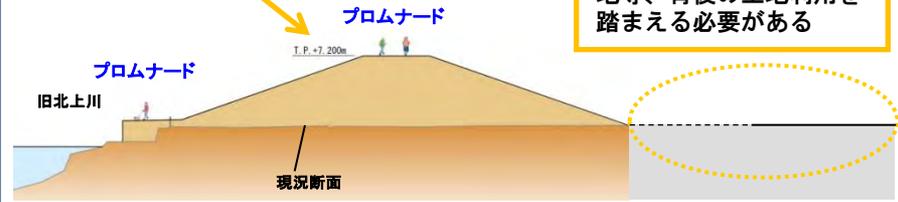
- ・マリーナ等拠点施設整備、周辺土地利用を踏まえた拠点性の検討

復興計画のイメージと拠点の留意点

背後に拠点を設ける場合に、どのように堤防と一体化させるか？

Aのイメージ

旧漁港の歴史や造船場跡地等、背後の土地利用を踏まえる必要がある



復興計画と拠点Eの課題



※堤防断面はイメージであり確定したものではありません

ルート④『旧北上川右岸上流』における課題

ルートテーマ

「ルート④ 旧北上川右岸上流」

旧北上川の風と風景を楽しむ

「川の風を楽しむルート」

現計画におけるルートの方向性

- ・既に堤防があり堤防上には散策路（サイクリングロード）が整備済（新たな整備は行わない）
- ・プロムナードの中で唯一、川とふれあえる河川敷があり、河川敷を使ったイベントなどの利活用が期待

現計画案

堤防上の通路が散策路として利活用されているため、新たな整備は行わず、利活用を推進する。

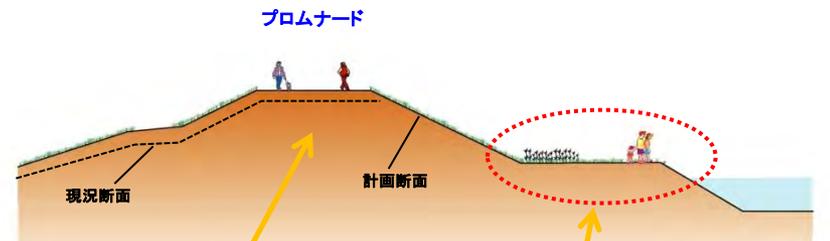


■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・ルートの方向性は現計画と同じ
- ・地盤沈下に応じた堤防の嵩上げはあるが、見直しはしない

復興計画のイメージとプロムナードの留意点

HWL+1.5mで整備



サイン、距離標等の整備により、散策路の利活用を推進する

川とふれあえる河川敷の利活用をどう検討するか？

復興計画とルートの課題



ルートの方向性は現計画と同じ

「川の風を楽しむルート」

※堤防断面はイメージであり確定したものではありません

拠点F『大橋地区』における課題

拠点テーマ

「拠点F:大橋地区」

花火と水辺のレジャーを楽しむ
「旧北上川水辺広場」

現計画における拠点の方向性

- 市街地を流れる旧北上川沿いとして、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントとして拠点を形成。また洪水時は防災拠点としての機能も併せる。
- 拠点では、水辺を望み子どもたちが思いっきり走り回れる原っぱとして、子どもたちの様々な活動や川開き時には花火大会会場としても機能

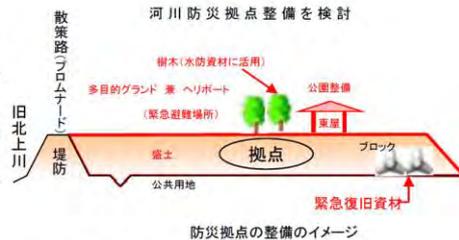
■プロムナード計画の方向性と主な課題

- 拠点の方向性は現計画と同じ
- 地盤沈下に応じた堤防の嵩上げはあるが、見直しはしない

現計画案

拠点イメージ

- 市街地を流れる旧北上川沿いには、多くの人が集い、水辺と親しめるポイントが少ないため、新たな拠点を形成。
- 拠点のあり方としては、多目的グラウンド(芝生広場)として子供たちが遊び回れるような空間をイメージ。また、大きな広場であることは、花火大会時の観覧場としての利用も可能(平時の利用)
- 洪水等の緊急時においては、水害対応の指揮や地域住民の避難場所などで活用をイメージ。
- 石巻大橋から石井閘門までの散策路(堤防上)では木陰が無いため、拠点に植樹して木陰を形成(樹木は水害時に水防対策として活用できる樹木を選定=水防資材)
- 人が集まるための駐車場も併設。



▼ 大規模災害発生時と平常時における防災拠点の機能

洪水等の緊急時には	平常時には
<ul style="list-style-type: none"> 水防情報の受発信基地 土砂、ブロック等備蓄した資材による緊急復旧の拠点 地域住民の緊急避難場所 水防司令室 水防団待機所 ヘリポートによる緊急輸送 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ、レクリエーションの場 河川等に関する情報発信の場 地域の方々のコミュニティ施設 地域の野外活動の場 各種イベントの開催

復興計画と拠点Fの課題



ルート⑤『北北上運河』における課題

ルートテーマ

「ルート⑤:北北上運河」

運河の水辺と緑を楽しむ
「運河ルート」

現計画における拠点の方向性

- ・既に散策路を整備済み（新たな整備は行わない）
- ・カヌーやボートを使った水上の利活用が多く、運河の景観の一つとなっている。また、運河沿いに並ぶ松並木もよい景観となっており、市民団体によるライトアップ活動も行われており、引き続き利活用を推進

現計画案

運河沿いには、すでに散策路が整備されているため、新たな整備は行わず、利活用を推進する。



■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・ルートの方向性は現計画と同じ
- ・地盤沈下に応じた堤防の嵩上げはあるが、見直しはしない

復興計画とルートの課題



拠点G『運河交流館』における課題

拠点テーマ

「拠点G:運河交流館」

川を学び水とふれあう

「水辺の交流広場」

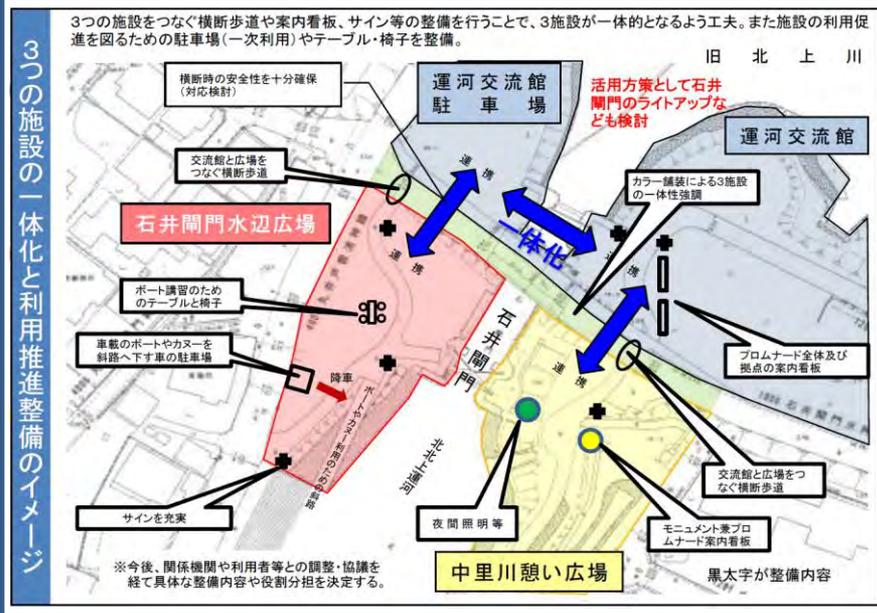
現計画における拠点の方向性

- ・ 運河交流館（交流と学び）、石井閘門水辺広場（活動）、中里川憩い広場（憩い）の3施設が、一つの施設とすることで拠点性を向上（⇒一体化のための整備）
- ・ 施設（拠点）の利活用を推進するため、使い勝手が良くなるような整備や取り組みを推進

■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・ 拠点の方向性は現計画と同じ
- ・ 地盤沈下に応じた堤防の嵩上げはあるが、見直しはしない

現計画案



復興計画と拠点Gの課題



拠点H『水と緑と子供たちの広場』における課題

拠点テーマ

「拠点H:水と緑と子供たちの広場」

運河と緑の憩いの空間

「水と緑と子供たちの広場」

現計画における拠点の方向性

- ・既に公園が整備されており、散歩や部活動でのランニング、サイクリングなどでの利活用が進んでいる（新たな整備は行わない）
- ・プロムナードとしてもっと使い勝手を良くする工夫を今後検討（プロムナード全体や現在位置がわかる看板の設置など）

現計画案

運河沿いの散策路と一緒にすでに公園が整備されている。（すでに拠点となっている。）



■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・拠点の方向性は現計画と同じ
- ・地盤沈下に応じた堤防の嵩上げはあるが、見直しはしない

復興計画と拠点Hの課題



ルート⑥『旧北上川左岸上流』における課題

ルートテーマ (案)

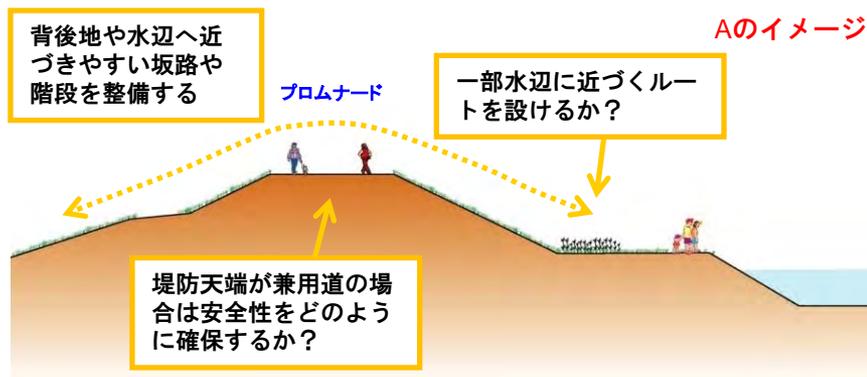
「ルート⑥:旧北上川左岸上流」

開放的な空間の中でスポーツと学びを誘うプロムナード
「スポーツと学びのルート」

■プロムナード計画の方向性と主な課題

- ・堤防が新設されることにより、堤防や水辺に近づきやすくするための坂路、階段等の工夫が必要
- ・一部、堤防天端が兼用道となることから、散策等の動線や安全性の確保

復興計画のイメージとプロムナードの留意点



※堤防断面はイメージであり確定したものではありません

ルートの方向性(案)

- ・対岸の町並みや、背後の田園風景を楽しみながら散策できるプロムナード（心地よい風を感じながらウォーキングやジョギング、散策、サイクリング）
- ・サイクリングやジョギング等の運動の利用を考慮した工夫（→カラー舗装や距離標）
- ・一部、水辺利用や水面利用を考慮した工夫（釣りやボート等）

復興計画とルートの課題



「水辺の緑のプロムナード計画」におけるサインについて

- ・今後、プロムナード計画の施設整備の検討と合わせて、どのようなサインを整備するとよいかについて検討が必要。
- ・サインは、**地域住民の利用のしやすさ**や、**観光客の誘導**及び**津波避難誘導**などの視点も踏まえて検討する。

■プロムナード計画で設置が想定されるサイン（例）

○プロムナード全体や拠点内施設全体を案内するサイン

- ・全体案内サイン
- ・拠点内の施設を案内するサイン 等

○拠点やプロムナードの方向を示すサイン

- ・観光客をまちの中心部からプロムナードまで誘導するサイン
- ・各プロムナードから拠点まで誘導するサイン 等

○地域資源を案内・説明するサイン

- ・歴史的な資源の名称を表示するサイン
- ・歴史的な地域資源を解説するサイン
- ・プロムナードの周辺の歴史資源や観光資源まで案内するサイン 等

○その他

- ・海や川の景観を楽しめる場所を示すサイン
- ・河口からの現在の位置までの距離を示すサイン
- ・お勧めの散策コースを何分で移動できるかを知らせるサイン 等

○避難場所や避難方向を示すサイン

- ・津波避難場所や津波避難ビルなどを示すサイン
- ・観光客を津波から安全な場所へ誘導するサイン 等

○津波の危険性を啓発するサイン

- ・津波の危険性を注意・警告するサイン
- ・ハザードマップサイン
- ・津波の知識を学習するサイン
- ・過去に来襲した津波の高さを示すサイン 等